

# 県内主要河川におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況（令和4年度）

小原明香・小堀功男

## 目的

県内ではヤマメ（川で一生活を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、詳細な利用実態や繁殖状況は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。

## 方法

**釣果情報** 県内主要河川におけるヤマメとサクラマスの釣果状況を把握するため、栃木県水産試験場ホームページ上に「サクラマス・本流ヤマメ・戻りヤマメの釣獲魚情報投稿フォーム」（Google フォームを使用）を開設し、釣り人から2022年シーズン（3月1日から9月19日）における釣果情報を収集した。1)

## 結果および考察

### 那珂川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数

2022年は10名の釣り人から17尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが58.8%（10尾）、サクラマスが41.2%（7尾）であった（図1）。また、全長31cm以上のサクラマスは5個体釣獲され、最大釣獲個体の全長は41cmであった。

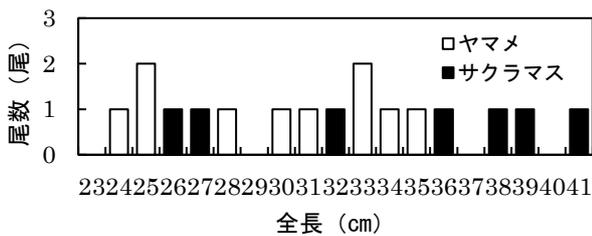


図1 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲尾数

### 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期

那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期 那珂川のヤマメ・サクラマスは3月下旬から9月中旬まで釣獲され、ヤマメでは4月と6月、サクラマスでは5月の釣果報告が最も多かった（図2）。那珂川におけるサクラマスの川への遡上時期は4月から7月までであることが耳石解析結果から明らかになっていることから<sup>2)</sup>、サクラマスは遡上してくるタイミングで釣られている個体が多いことが示唆された。

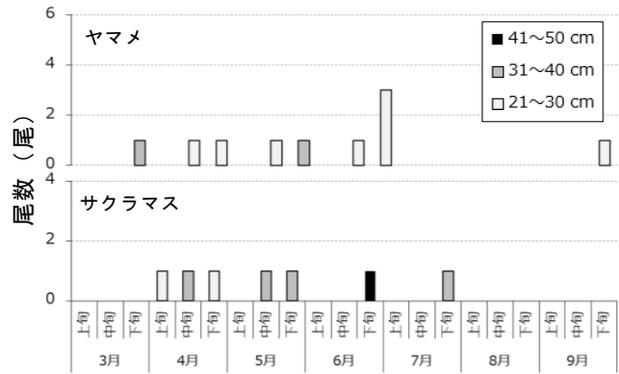


図2 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期

**那珂川における釣り方別釣果とリリース状況** 報告のあった10名の釣り人のうち9名がルアー釣りにより16尾を、1名がフライ釣りにより1尾を釣獲していた。釣獲魚のリリースは10名中4名が実施しており、リリース割合は56.3%だった。

**鬼怒川におけるヤマメの釣獲尾数** 2022年は11名の釣り人から44尾の釣果情報の投稿があった。全長31cm以上の大型個体は19尾釣獲され、最大釣獲個体の全長は48cmであった。鬼怒川では河川残留型ヤマメにおいても色斑が確認できない個体がいることから、外部形態の特徴から回遊型を判別することは困難であるが<sup>3)</sup>、今年度の報告では、色斑がある個体が90.9%（40尾）確認され、色斑のない個体が9.1%（4尾）であった（図3）。

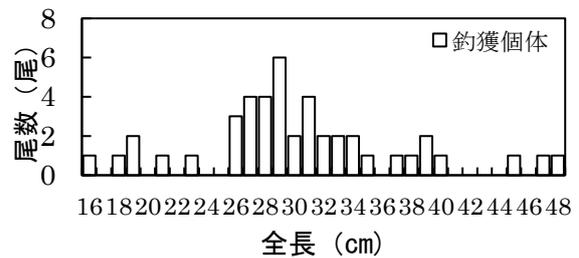


図3 鬼怒川におけるヤマメの釣獲尾数

**鬼怒川におけるヤマメの釣獲時期** 鬼怒川のヤマメは3月上旬から9月中旬まで釣獲され、6月の釣果報告が最も多かった（図4）。

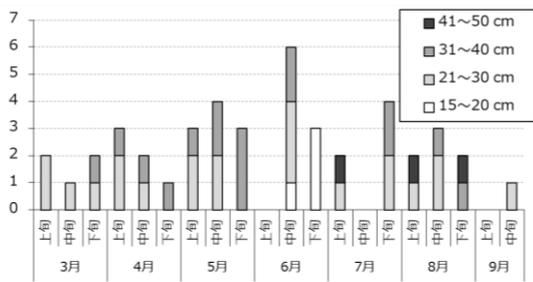


図4 鬼怒川におけるヤマメの釣獲時期

鬼怒川における釣り方別釣果とリリース状況 報告のあった11名の釣り人のうち7名がルアー釣りにより29尾、2名が餌釣りにより7尾、2名がフライ釣りにより4尾を釣獲していた。釣獲魚のリリースは10名中4名が実施しており、リリース割合は88.6%と高水準だった。

#### 引用文献

- 1) 網川孝俊・横塚哲也. 那珂川水系におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況(平成29年度). 栃木県水産試験場研究報告. 2019; 62: 43.
- 2) 網川孝俊・白井厚太郎. 那珂川に生息するヤマメ・サクラマスの回遊履歴の推定. 栃木県水産試験場研究報告. 2018; 61: 56-58.
- 3) 網川孝俊・横塚哲也・小堀功男・白井厚太郎. 耳石微量元素分析による鬼怒川ヤマメの回遊履歴. 栃木県水産試験場研究報告. 2019; 62: 46-48.

(指導環境室)